

## 平成 25 年第 4 回定例会（12 月）一般質問

### （2）月形町における幼児教育の課題と対応について（特に大谷幼稚園閉園にともなう3歳児の教育環境）

○ 議員 宮下 裕美子 2 点目に移ります。月形町における幼児教育の課題と対応について、特に大谷幼稚園閉園にともなう3歳児の教育環境です。月形町の幼児教育は長年、大谷幼稚園と花の里保育園が担ってきたことは、町民誰もが認めるところです。その中で大谷幼稚園は来年には創立60周年を迎えるほど永きに渡り月形町の幼児教育を支えてきました。町民の愛着も深いと言えます。その大谷幼稚園が平成27年度末で閉園するというのを私自身が初めて聞いたのは、11月12日の交流センターで行われた町政懇談会冒頭での町長の挨拶の場面でした。それから11月25日にまちづくり常任委員会があったのですが、そこで教育次長が議員の質問に答えるかたちで出てきています。そして11月27日の札比内コミュニティーセンターで行われた町政懇談会では、質疑の際の話題に上っていました。このように大谷幼稚園閉園に関しては、断片的な情報として提供されるだけで、閉園に至る経過や行政との関わり、そして何より大谷幼稚園閉園後の月形町の幼児教育をどのように整えていくのか明らかにされていません。そこで2点、教育長と町長にお伺いします。大谷幼稚園が閉園するにあたり、行政はどのように関わってきたのか。経過も含めて説明をお願いします。もう1点は大谷幼稚園閉園後の幼児教育環境をどのように整えていくのか。これらに対して教育長には教育委員会の担当分野、町長にはそれ以外の関連分野や町としての方針をお伺いいたします。

○ 議長 笹木 英二 教育長

○ 教育長 松山 徹 お答えさせていただきます。説明が前後しますが、まず、閉園後ということで平成28年以降について説明させていただきます。現在、役場内で子ども子育て支援事業計画策定委員会を起し、その組織に私も教育委員会も参加しております。その中で意見を述べたいと思っております。また、大きく就学前の子ども達の保育について検討しようとしております。その一環として保護者や子育て支援に関する事業に従事するものなどで構成する子ども子育て会議を立ち上げております。そのような中で関係者や保護者の意見を聞いて、より充実した環境づくりに努めていこうとしているところ

ろであります。その中で教育委員会としても、幼稚園教育を望む声に対して幼稚園の場を確保するよう努めてまいります。2点目の大谷幼稚園との関わりについてですが、このたびの説明会の報告も受けていますし、現在もいつもと変わらない様子で話し合っております。特に今回の閉園に際しては、私どもは突然、話を聞いたので、もちろんその時は理由も聞きました。60年と半世紀以上も続いた歴史ある幼稚園ですから、何とか続けてほしいと思いました。「園児を増やすために以前は雁里や豊正・富樫・西美唄・大富地区などから子供たちが通っていましたね。そこから子供たちを集めることはできないのですか。」ということも言わせていただきました。また「幼稚園活動に新しい変化をもたらすために体験活動を増やしてはどうですか。」更には「協力できることがあれば言ってください。」と話したところ「外国語活動を取り入れた教育活動に取り組んでみたい。」ということで、今年度から外国語指導助手を派遣したところですが、先日も英語指導助手が好評なので次年度も派遣してほしいとされています。もちろん、60周年の周年行事は協力すると言っています。双方間では円滑に話し合っていると思っています。大谷幼稚園とは色々なケースに応じた相談をしました。例えば町立で経営できないだろうか。または民間業者への経営継承についても相談があり、そうなった場合は、教育委員会として橋渡しをしてもらえるかということも言われたので、そう決まったらやってみましょうという話をしました。また、認定子ども園の話もありました。更には町から助成してもらえたら経営できないだろうかという話もしました。その時は幼稚園としてきちんと試算してみてくださいというお話もさせていただきました。そんな中で結果として11月1日に平成27年度をもって閉園するというお話をいただいております。教育委員会と大谷幼稚園の経緯の中で、何か問題があったのか振り返ってみますが、今まで教育委員会に問い合わせはなかったですし、大谷幼稚園にも問い合わせはないですかと最近も確認したところ、ないですと答えが返ってきたところですが、しかしながら幼稚園はまだ2年3ヶ月続くと考えますので、教育委員会としても協力していこうと考えています。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下 裕美子 今の答弁ですが、私は閉園に至るまでの経過を聞いているのですが、それは町長の答弁で明らかになるのですか。それとも教育長の答弁が漏れているのですか。

○ 議長 笹木 英二 町長の答弁を聞いてから発言してください。

○ 議長 笹木 英二 町長

○ 町長 櫻庭 誠二 私が経過として説明できること、直接、お会いしたのは本年2月だったと思います。当時、吉川園長と役員1名が見えられて、現在の幼稚園の厳しい状況では経営を平成27年度をもって閉園したいという言葉をいただいたところでした。その後はしっかり行政として対応していかなければならないということで、その後は教育委員会としっかり打ち合わせしてくださいということで、別れたところであります。その後、4月か5月だったでしょうか、役員1名が来て実は数百万円の援助があれば後2年ほどできるのではないかとと言われていましたが、これは正式なコメントではないと受け取っていたのが事実であります。その後、10月23日、理事長・園長以下役員の方々が見えられ、もし幼稚園を続けるのであればということで、2パターンの推計・推定の収支予想を持ってきていただいたところですが、極めて厳しい経営状況であるということで、職員の皆さんが今までもこの60年間経営していくためには、給与・人件費を相当抑えてやってきたということでありました。そこである程度の支援という状況で、これは当初、私たちが想定する以上の金額がかかるだろうということで、それらについてはちょっと答えることができないのではないかと答弁したところであります。その後、11月1日、予定どおりということではありますが、平成27年度つまり平成28年3月31日をもって幼稚園については閉園する。そしてこの60年間の幼稚園活動に対して敬意を払っていただきたい。また、そこで残されていく今年3歳児を取ることになる1年残る、来年は2年残るということで、幼児として教育を満願できない人たちの対応については、町もしっかり対応してくださいということでしたので、このことは私たちもできる限りのかたちでやらせてもらいますと返事をしたところであります。経過及び考え方につきましては、そういうことで大谷幼稚園の役員の皆さんにそういうお約束をしておりますので、平成28年度以降につきましては、どのようなかたちでということをここで名言できるものではないですが、町もしっかり関わった上で体制を組みたいと考えております。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下 裕美子 教育委員会側も相当関わっているはずですが、今の町長の答弁は町長が関わったという前置きで説明されましたが、教育委員会の経過について抜けていたので、閉園までの経過についてお願いします。

○ 議長 笹木 英二 教育長

○ 教育長 松山 徹 町長が話をし、その前段に2回ほど昨年11月、私が大谷幼稚園に呼ばれて、大谷幼稚園から年々、入園してくる子どもが減少して、経営が難しい状況になっているということ。また、園舎の床面が年々、波を打ってきて補修工事が必要です。また、屋根の補修工事が必要です。それから、平成26年は60周年記念行事をおこなうので、平成26年度までは経営したいというお話をいただきました。その後は町立幼稚園で経営できないだろうか。または認定子ども園になってもかまわないですというお話をしておりました。私どもは短期間で結論がでる問題ではないです。町理事者にも伝えます。町議会の了解も必要となる。周年行事は協力しますというお話をさせていただき、大谷幼稚園も理事会で話し合わなければならないということで、理事会で話し合って考え方をまとめましょうということで、そこで1回目の話し合いは終わりました。今年度に入り1月、大谷幼稚園からお話があり、その時は平成26年度までは経営できるけれどその後は難しいというお話がありました。無理だったら平成27年度以降、町立幼稚園で存続してほしいという話もでしたが、その時に「無理だったら助成はしてもらえないでしょうか。」ということも「助成があれば何年間か継続できる。」とお話していました。その時にアイデアとして「外国語を取り入れた活動をやってみたい。」ということで、私どもも「検討します。」ということでお話しさせていただきました。また、先ほども申し上げました以前は月形町だけでなく近隣からも子供たちを集めていたので、そんな方法はないですかということで、体験活動などのお話をしました。私どもとはこの2回お話しさせていただき、私ども町理事者にきちんと伝えますということで、大谷幼稚園でもきちんと理事会でお話してくださいということで、そして2月に町長にお会いしてということです。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下 裕美子 2月までではなく、閉園発表の11月1日までお願いします。

○ 議長 笹木 英二 教育長

○ 教育長 松山 徹 それで先ほど2月と4月、5月ということで、町長に町から助成してもらえれば幼稚園が経営できるというお話があり、その後9月に教育委員会にお話があり、平成27年度をもって閉園する。その時点で9月です。平成26年度は園児募集の意向はあります。その際、平成28年度以降は私立幼稚園の経営移行は考えていますので、そのようになった際には

口添えしてもらえますかということも話しておりました。また、後半は認定子ども園として経営継承してほしいと言っていました。更には町から助成があれば当面継続できると話しておりました。助成や継承となると予算を要することになるので、試算等具体的な検討に入ることになるので経営内容を示してください。それで先ほど町長が10月のお話をさせていただきましたが、二様のペーパー試算表が出てきたという結果につながると思います。その時、幼稚園にも理事会に図って意思決定してください。互いに10月中旬を目途に町側と話し合しましょうということで、10月中旬に大谷幼稚園と町側が話しをして、先ほどの町長の報告となります。町から助成があれば閉園を延ばすことができるということで検討したけれど、なかなか難しいというご判断をいただき、平成27年度をもって閉園したいということです。3歳児については、閉園が前提となるけれど園児を募集しますということで話が終わりました。その後、月形町から幼稚園教育の火を残したいので、民間の幼稚園業者への橋渡しをしてくださいというお話が町長にあり、橋渡しをしましょうということでお話ししました。そして11月を迎えてということで、平成27年度をもって閉園しますということです。その時は民間業者への経営継承はしないというお話しはしていました。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下 裕美子 今、町長と教育長から閉園までの経過を含めて説明いただきましたが、非常に重要なポイントなのできちんと答えていただきたいことがあります。まず、大谷幼稚園が閉園するという認識をきちんと持ったのはいつになりますか。最初の教育長の答弁では突然、閉園の話を聞いたのでというところからスタートしているのですが、それがいつだったのかという明快な説明がなかったので、どの段階で閉園ということを知ったのか。それは町長も含めてお願いしたいのです。それから、現状の中、平成27年度末で幼稚園が閉園すると決まったのですが、町では今どうこうすることは決まっていないということは分かったのですが、いつまでに方向性をだすつもりでいるのでしょうか。この後、どんなかたちにするのか分かりませんが、どんなふうを考えているのか。いつまでにそれをやるというスケジュール的なものは、もう立ててもいいと思いますが、それがどのように考えているのか、どちらが答えるのか分かりませんが、そこをよろしくお願いします。

○ 議長 笹木 英二 内容を聞いてみると、1年前からこの話がちらっとあったということで、去年から約1年経っているのですが、この1年間にどのよ

うな方向性、考えを持って、ただ、無駄にきたような感じもします。もう一つは確か札比内での町政懇談会に私も行っていたのですが、随分、おかしいと思っていたのです。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下 裕美子 閉園の認識時期といつまでに方向性をだすかという説明がなかった。

○ 議長 笹木 英二 大谷幼稚園から閉園の時期をいつ聞いたのかということですか。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下 裕美子 聞いたのはすでに去年11月であるということは聞いたけれど、最初は突然、閉園の話聞いたということで、閉園と認識したのは最初の時なのか。2点目の質問の続きです。先ほど議長から話がでたのですが、この後、札比内コミュニティーセンターのことも含めてお話をさせていただきたいので、今きちんとさせていただきたいのは、教育長と町長が大谷幼稚園閉園であると認識したのはいつの時期なのか。それから、町は方向性について今は全然、決まっていないということですが、いつごろまでに今後の方向性、対応を決めるつもりなのか。やり方は先ほど言った子ども子育て会議でやるというお話をされていましたが、いつまでにだすつもりなのか、そこの2点をお伺いします。

○ 議長 笹木 英二 町長

○ 町長 櫻庭 誠二 先ほど言いましたとおり、昨年2月に私の所に来たときには、当時の吉川園長は閉園しますということでしたし、一緒に来られた方は数百万円の補助がもらえれば2年程度の延長ができるのではないかというお話で、この両方が経過としてはそのままきていたということでありました。しっかり結論としてでたのは11月1日に中嶋園長を中心として来られて、文書で平成28年3月31日をもって大谷幼稚園は閉園しますというのが、しっかりとした意思として受け取ったということです。

○ 議長 笹木 英二 教育長

○ 教育長 松山 徹 1点目の閉園の認識ですが、私どもも11月1日と押さえております。2点目の幼稚園教育のことについては、先ほども申し上げたとおり、幼稚園教育を望む声に対しては、この後、検討して引き続き、途切れないよう月形町で展開するようなかたちを取っていきたいと思っています。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下 裕美子 確認ですが、引き続き、幼稚園教育を町内で途切れな  
いようにしていくという認識でいいですか。

○ 議長 笹木 英二 教育長

○ 教育長 松山 徹 はい、そうです。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下 裕美子 分かりました。今、質問した中で、私独自に今回の閉  
園までの流れを調査したのですが、その部分についてもほぼ同じような内容  
になっていました。回数やお会いしている人も含めてきちんと同じような認  
識に立てているので、そのことについてはあえて言いませんけれども、今の  
答弁で2つの大きな論点が出てきていると考えます。1点は、月形町の幼児  
教育に関すること。幼児教育の環境整備に対していまだに何ら手が打たれて  
いない。対応が不十分で平成28年度以降の幼児教育を継続すると考えるな  
ら、ちょっと問題が出てくるのではないかというところで、一つ大きな論点  
があります。それから、もう一つは、行政と町民の信頼関係に関すること。  
これに対しても2点ですが、懸念する課題があると考えます。二つ論点があ  
りますが、同時に話をしていくと分かりにくくなりますので、まずは幼児教  
育に関することについて追及して行きたいと思います。今回、大谷幼稚園が  
閉園するまで2年と少ししかないこの時期に初めて閉園する情報が公になっ  
たのですが、このことでもっとも影響を受けたのは平成26年度に3歳児と  
なるお子さんとその保護者になるのです。ひとまず来年度は大谷幼稚園が受  
け入れることになっていますが、大谷幼稚園ではその子供たちは卒園できな  
いわけです。最低1年間は別の幼稚園等に通う必要があります。先の見通し  
が立っていない現状に保護者の不安は非常に募っています。私自身も子ども  
を持つ親ですから、その心中は穏やかでないことは、十分に理解できます。  
通常、学校などが閉校する場合、その後の受け入れ先あるいは見通しがつい  
た状態で閉校を発表するわけですが、小学校の場合もそうでしたし、義務教  
育でない高校などでも公立・私立別なく同じように関係者は対応します。私  
立幼稚園だから何もしないということにはならないと考えます。今回のこと  
で言えば、幼稚園側は先ほどのお話では11月に閉園の意向を町に伝えてき  
ています。その後1月、2月にも相談に訪れています。幼稚園側は月形町幼  
児教育の道筋をつけてから閉園したいと願っていたと聞いています。確かに  
1年前の段階で、立て続けに3回も町と面談していることから、道筋をつけ  
たいという意図が私には汲み取れます。しかし、情報は公にならず町もその

段階では全く動かなかった。このことでどれだけの不利益が生じているか。非常に不利益が生じています。例えばその段階でもし情報が公になっていて様々な検討がスタートしていれば、保護者は選択肢を得ることができて、検討する余裕が持てたでしょう。岩見沢方面の幼稚園入園も探ることができました。また、町としてもその時から対応を始めていけば、慌てて結論をだすような事態にはならなかったのではないのでしょうか。最初の段階で大谷幼稚園が閉園するという認識を持って動き出せば、もう少し状況が変わったのかな。今となっては善後策を検討するしかない時期にきてしまったと残念に思っています。それで善後策を検討する上で重要になってくるのは、いつまでに子ども達の受け入れ先を明確にするか。いつまでなら影響を最小限にすることができるか。先ほども言ったように本来なら幼稚園の閉園発表と同時に示されることであり、早ければ早いほどいいわけですが、現状を踏まえて、善後策として考えた場合、いつまでに子どもの受け入れ先を明確にするかというお話をさせていただきます。少し話はそれますが、まず、町内にはちらいおつ遊び塾（わくわくの杜）という選択肢が一つあります。わくわくの杜は、NPO法人ファミリーサポート聖十字広場が開設する幼児保育施設で、認可外保育施設いわゆる無認可保育園扱いです。ですから学校法人が経営している聖十字幼稚園とは違っています。認可外保育園だからといって保育内容に問題があるということではないですが、入園案内にも幼稚園教育に準じた保育をする施設と紹介されていて、幼稚園とは違う位置づけになっています。今まで町内には幼稚園・認可保育所・認可外保育施設がありましたが、選択肢を考える上で、これらの特徴を説明させていただきます。幼稚園は、幼稚園教育要領の元で教育課程を作り小学校に入るときには、幼稚園幼児指導要録というものが小学校に提出されます。誰でも入ることができ所得に応じて私立幼稚園就園奨励費という補助金もでます。一方、認可保育園は、保育所保育指針があり、教育課程を作って、保育所児童保育要録という記録が小学校に提出されます。保育に欠ける子どもが対象で、所得に応じた保育料になります。認可外保育施設、わくわくの杜がこれに該当しますが、保育内容にしぼりが無いということで、自由で特徴的な保育ができる代わりに保育要録等の作成義務はないということで、補助金もない、誰でも入れるという位置づけです。このようなことからちらいおつ遊び塾（わくわくの杜）は幼児教育のひとつの選択肢とは位置づけられますが、幼稚園の代わりにはならないと考えます。現状では町内にありながら入園できない現状がありますので、



それは選択肢を広めるという意味から入園できるような働きかけは必要であると思いますが、大谷幼稚園が閉園したからといって、ちらいおつ遊び塾（わくわくの杜）が、その受け入れ先にはならないと考えています。それで、先ほど言った一番、影響を受ける3歳児の受け入れ先はいつまでに決定すればいいのか。仮に一般的なすでにある学校法人の経営する幼稚園を受け入れ先とするなら、大谷幼稚園が平成27年度末で閉園するから平成28年度までに対応を検討すればいいということではないです。月形町内での幼稚園教育の主流は、2年保育になり平成26年度、来年3歳児の子どもが同じ幼稚園で2年保育を受けるためには、平成27年4月には新たな園に入園しなければなりません。平成27年度の幼稚園入園説明会は、平成26年9月頃からスタートします。平成26年9月、来年9月ですから、幼稚園を受け入れ先とするならどんなに遅くとも来年夏までには決定する必要があると いうことです。もし、花の里保育園を認定子ども園にして受け入れるとするなら、認定こども園にするための申請手続き、道との打ち合わせから認可までには約1年を要します。その前に認定こども園を開設するかどうかの調査と決定が必要で、調査には指定管理者との関係もあります。現状から平成27年度開設は難しい。努力してちょうど大谷幼稚園が閉園すると同時の平成28年度からというふうになるであろう。保育園の入所希望は、直前の希望を取ればいいので、それに間に合えばいいとも考えられます。しかし、ここで重大な問題が指定管理者の指定管理期間です。札親会による指定管理期間は、平成25年度末、本年度末でいったん切れます。来年度以降に向けて間もなく更新時期になるのですが、認定こども園開設となれば契約内容も変わるので、次の指定管理期間を今までのように5年間とは組めない。もし5年間と組んだらその先に認定こども園があるわけです。指定管理である以上、認定こども園にした場合の担い手は、必ずしも札親会ではない。一般公募も含めて指定管理者そのものを見直す必要も出てくるでしょう。よって次の契約時には、その先の認定こども園開設を見据えた指定管理期間を設定する必要があると考えます。ということは、今年度中の早急な方針の決定と対応が必要になってくる。結果的に前倒しでどんどん進めなければいけないと考えます。これが今、月形町の置かれている状況であると認識していますが、今まで一連で説明させていただきました。幼児教育環境子ども園の影響を考えた場合、一刻も早い決断が迫られるような状況であると思います。町長に質問したいのですが、今ほど指摘した事項を踏まえて。月形町はいつまでに月形町幼児

教育の方向性の結論をだすのか。期限と担当を明確に示していただきたいと思います。

○ 議長 笹木 英二 教育長

○ 教育長 松山 徹 今、宮下議員がお話されたことは、本当に大事な課題であると思います。色々な選択肢として花の里保育園からわくわくの杜（聖十字広場）のことも話されたということで、私ども町民や保護者の不安をいち早く解かなければならないということで、私ども全く同じで早く決めて周知して落ち着いていただきたいと思います。宮下議員自身が今、わくわくの杜（聖十字広場）は認可外保育施設と言ったとおり、それぞれ課題を持っているということですから、町全体として本当に考えて行かなければならないのですが、逆に言うと非常に難しい課題であると思っています。早く決めなければならぬけれども、行政だけでなく町全体として早く決めてやらなければ大変で、できるだけ早く決めていきたいと思っています。一つ気になったことは、認定子ども園の施設の許認可は、平成27年度開設は難しいのではないかとということですが、それは確かなことなのか。反問権になるからできないですが、まず、例えば法人の幼稚園は、私学法人の資格を持っています。保育園は、社会福祉法人の資格を持って保育所を開いていますので、その法人が認可子ども園を取るときに、一つは法人としての認可を持っていると見えています。もう一つ、認定こども園になるための施設の関係で、丸1年半かかるかなと思っています。この後、私どもも勉強させていただき、許認可をだす道の総務部か保健福祉部であると思いますが、聞いてみたいと思います。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下 裕美子 論点がずれていると思うので、もう少し説明させていただきたいのですが、認定子ども園の開設は平成27年度でも平成28年度でもいいので、1年半の問題ではない。指定管理の切り替えが本年度に迫っているということです。指定管理の切り替えの段階が、今年3月末で終わってしまうから、どんなに許認可を急ぐことよりもっと先にいつまでに方針を決めないと、認定こども園を平成28年度にやるというのだったら早いほうがいい。だけどやるにしてもやらないにしても、今回の指定管理期間を切り替えるときには、ある程度期間を決めていなければ、その先がないでしょ。内部的問題として、許認可に1年半かかるということ以前の認定子ども園開設までの色々なことを加味して1年半ということ。そのことより前に指定管理者の切り替えがあり、次は5年ではなく、3年にする、2年にすると

いうことを決定しないと、認可保育園をいつ建てるのかが決まらないうと、切り替えができないから、そこを問題としているということです。

○ 議長 笹木 英二 住民課長

○ 住民課長 東出 善幸 確かに来年度3月をもって花の里保育園の指定管理は終了することになっています。ただ、指定管理はこのまま継続させていただくことになっても協定変更もできますし、現在、5年間という指定管理をやっていますが、これをあえて5年間ということではなく1年間の指定管理ということも可能かと思います。

○ 議長 笹木 英二 回数はきているのですが、大事な問題だから。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下 裕美子 協定で指定管理を1年にすることは可能ということですが、指定管理を受ける側からしてもそこはある程度、見通しを持った中で事業を進めていくのだから、できるから1年でOKということにはならないと思います。特に今回のことに関して言うとその先に認定子ども園にする、しないということも含めてなので非常に重要な局面であると思います。今回の議会に指定管理の切り替え案件がでていたわけではなくて、3月まで少し余裕があるので、それまでに方針を決定するという事になれば、それは2年、3年という方向がでるのではないかと。そういう意味で私はお伺いしているのです。町は指定管理期間を1年に変更できるから先延ばしにできるけれど、それがはっきりしないと保護者にとっては先が見えない状況がずっと続くわけですね。はっきり言っていい状況ではない。先ほど言ったように幼稚園がすでに閉園することを決めていて平成27年度以降の状況が分からない中で選択肢が狭まっているのか。あるいは広げることができるのか。その点を含めて、いつまでに方向性がはっきりするのか、お伺いしたいと思います。これは理事者が決めて進めることで、理事者の決断次第であると考えますので、お伺いします。

○ 議長 笹木 英二 町長

○ 町長 櫻庭 誠二 今後、色々な人の意見を聞きながら、今までのことを聞いていてもこれは平成25年度中にある程度の結論をもって、それぞれ父兄の皆さんにも説明できるという方向性で、それぞれ皆さんに相談して行きたいと考えております。

○ 議長 笹木 英二 11月1日に閉園の認識という話があったので、それは急いでやってもできる問題ではないと思います。一生懸命に急いでやるとい

うことだから、この問題については、もう1回だけよろしいですが、全員協議会でもまた説明があると思いますので、その時にやってもらう。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下 裕美子 今の答弁で私は2つ論点があると言って、その1つの幼児教育に関することについては、一応、町長の答弁で平成25年度中に答えを出さなければいけないかなと、はっきりだすとは言わなかったので、出せるかなということだったので、それはひとまず理解します。もう1つの論点があるのですが、これは発言の食い違いについて、行政と町民との信頼関係に関することです。大谷幼稚園が閉園に至るまでの経過について、最初の段階で答弁いただきましたけれども、その内容は札比内地区の町政懇談会で私が聞いていたものと食い違っているように思いました。札比内地区でのやり取りは、ある区長から「幼稚園閉園をいつ聞いたのか。」と質問があったときに町長は「11月1日に初めて聞いた。」と言われました。その時、教育長は無言。その後、会場に居た幼稚園関係者が「今年の春には教育委員会に話を持って行っているはずだが。」と、もう一度、投げかけています。それに対して町長・教育長は全くお答えにならなかった。そのまま会議は流れていったわけです。先ほどの話ですと、約1年前から町長も教育長も大谷幼稚園側と複数回、面談して閉園の意向ということを知っていたわけですが、なぜ、11月1日に初めて聞いたと町長は発言し、今も教育長は最初に言っていたので、どういうことだったのか。細かく聞いていくと1回で納まらないので、少し続けていいですか。

○ 議長 笹木 英二 いいです。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下 裕美子 私が疑問に思うのは、町政懇談会と町執行部と町民が直接対話する行政にとってとても重要な場面で、町長自らが間違った発言をしたのではないかと私は考えます。行政との信頼を失墜させ懇談会そのものが成り立たなくなるような発言をしたのではないかと私は考えます。今までの話であればもっと早い段階から聞いていたということで、幼稚園関係者から「春には教育委員会に話を持って行っているはずだけれども。」と投げかけがあったときにも、全く答えていなかったで、そのことに対して否定していたのかなと取りました。そのようなことで間違った認識で11月1日に初めて聞いたという、それまでは何ら閉園であるということを知っていたという印象を受ける発言をされていたことは、非常に問題が大きいと思います。そ

れからもう1点、大谷幼稚園は大谷幼稚園関係者複数の方から聞いたのですが、閉園するにあたっては月形町幼児教育の道筋を付けてから、つまり、幼稚園の受け入れ先を確保してから閉園したいと大谷幼稚園側は強い思いがあって、幾度となく、いよいよ経営的に厳しくなった今から1年前から平成27年度末で閉園するという意向を町には伝えてきた。相談もしてきたと言っていました。これに対して「この件は保護者には話をしないでほしい。」というかたちで、松山教育長から要請があったと聞いています。そのことにより大谷幼稚園が閉園するということが約1年間、非常に内々で進められ、もし内々で進められていたとしても閉園後の道筋が十分に検討されているのであれば、それもありなのかなと思うのですが、先ほどまでの説明を聞いてきた段階で、これから子ども子育て会議で図っていく、いつまで方向性をだすというはっきりした方向性もないし、この1年間、どういうかたちで、なぜ、1年間、全く何も動かない中で過ごしてきてしまったのか。なぜ、あの段階で「保護者には話をしないでほしい。」と要請したのか。その真意が問われている、と私は考えます。まとめると最後の質問になりますので、ぜひとも答えていただきたいのは、町長はなぜ町政懇談会の席上で事実と異なる発言をしていたのかということ。それから、教育長は保護者に話をしないでほしいと、口止めとも取れるような発言をしているのですが、そこの部分、最後の質問でその後、できないので先走った言い方をしてしまい申し訳ないのですが、万が一にもそういう発言をしていない。勝手に相手が口止めしたと思われるのかなと思ったとしても、幼稚園を所管する教育委員会であれば、その先の閉園後の取り進め方を検討する監督部署ですから、早く閉園の話をした方がいいのではないかとか。例えば他の幼稚園が入園説明会を始める9月秋になる前にそういうことは公表した方がいいという助言をするなど、そういうこともできたのではないか。一番はそれに向けた町内の取り組みを促進させる立場にありながら、そのあたりも全然、進んでいないということで、そのあたり、どのようなことになっていたのか、それぞれの真意をお伺いしたいと思います。

○ 議長 笹木 英二 町長

○ 町長 櫻庭 誠二 先ほども申しあげましたとおり、10月23日、もし町が助成してくれるのであれば1年ないし2年延長する可能性としての収支予想みたいな物を持って来てもらっていますから、私としては、その時点ではまだ大谷幼稚園側の本気で閉園しますという話ではなかったわけです。そし

て11月1日には正式な文書を持って私たちの所に来て、平成28年3月31日をもって閉園しますということですから、そのことが組織対組織として話をするときのやはりけじめの日にちがその日だろうと考えているところがあります。そういう意味でそういう話をさせてもらいました。

○ 議長 笹木 英二 教育長

○ 教育長 松山 徹 先ほどの経過報告ということで、おおむね一致しているということですが、もう1回、確認しますが、9月の段階で私ども教育委員会とお話したときは、平成27年度で閉園することと平成26年度は園児を募集するというお話をしております。話の前段で私立幼稚園の経営移行は考えているので、そうなったときには口添えしてもらえますかという話もしております。また、後半、認定子ども園としての経営を継承してほしいとも言っていました。更には町から助成があれば当面、継続できるという話もできていました。そして10月に入って町から助成があれば経営を延ばせるか検討したが、難しいということで、平成27年度をもって閉園するというので、そして幼稚園教育を残したいので、民間の幼稚園業者との橋渡しをしてほしいということで、今、9月と10月だけの経過をお話しましたけれども、そのときに公表したらと私の方に質問したのですが、私はこのように答えました。「考えが固まっていない段階では、はっきりするまで公表しない方がいいですね。」というお話をしました。9月と10月の段階でもう話の中身が変わっていました。更に11月にもやはり文書を持って町長は閉園すると言っていますが、その時にも民間業者への経営継承はしないということで、もうこれが最終決定だなと思っております。以上、経過ですが、私どもは決定がないと検討には入っていけないということで、ずっと大谷幼稚園が決め兼ねていた時期もあったと思いますが、それはそれぞれ大谷幼稚園に携わった方々の万感の思いがあるということで、やはり時間がかかると思っていたので、決定は先ほどと同じ11月1日です。